

環境報告書2018

Environmental Report 2018



国立大学法人 山梨大学

UNIVERSITY OF YAMANASHI

目次

トップメッセージ	・ ・ ・ 1
大学概要	・ ・ ・ 2
環境方針（山梨大学 環境宣言）	・ ・ ・ 3
主要な事業所	・ ・ ・ 4
環境活動の体制	・ ・ ・ 5
環境配慮の目標	・ ・ ・ 6
環境配慮目標達成のための取組	・ ・ ・ 7
事業活動に伴う環境への負荷	・ ・ ・ 8～12
環境関連法への対応状況	・ ・ ・ 12
環境配慮に係る教育	・ ・ ・ 13
環境配慮に係る研究	・ ・ ・ 14, 15

学長トップメッセージ

山梨大学は、南方に世界文化遺産の富士山、北方に八ヶ岳、西方に南アルプス連峰を望む、風光明媚な景観と、日本一長い日照時間や豊富な水資源など、自然豊かな落ち着いた環境の中で、「地域の中核、世界の人材」を掲げ、世界を視野に入れた最先端の医工農融合研究を推進するとともに、その成果に基づく高度な教育を通じて、地域社会の中核として地域の要請に応えることができる人材、世界を舞台に活躍できる人材の養成を図り、社会に貢献することを目指しています。

本学では、先端的研究成果を基盤に、学生の教育を行い、全教職員が協力して、広い視野と優れた道徳的及び専門的能力を持つ人材の育成に情熱を持って努めています。甲府キャンパスでは、樹木等の環境改善を、理事を含むメンバーで行っております。

教育学部では、教職・教科に関する専門知識・技能の基本を身につけ、自然科学教育などを通じ環境に配慮できる教育者の養成に取り組んでいます。

医学部では、生涯にわたって医学的知識、技術の修得に努め、地域社会・国際社会の保健医療・福祉に貢献する人材および疾患の原因解明や治療法の開発に寄与できる研究者の養成に取り組んでいます。

工学部では、環境と調和した社会の実現を担う技術者を養成するため、環境に配慮した社会基盤の整備・管理、低環境負荷材料の開発、クリーンエネルギー技術の開発など、各分野における専門知識と問題解決力を備え、持続可能な社会基盤の構築に貢献する人材の養成に取り組んでいます。

生命環境学部では、生命・食・環境・経営分野の教育研究において互いに連携し、さらに医学部や教育人間科学部とも連携した諸学融合の教育研究を推進しています。これにより、地域社会から国際社会に至る普遍的な課題である「食と健康」及び「生命と環境」に関わる複雑で多様な課題の解決のために貢献する人材の養成に取り組んでいます。

さらに、本学は大学院附属施設として、国際環境流域研究センターを有し、水資源の枯渇、水災害、水環境の悪化、水に起因する病気などの解決に必要な研究を国際ネットワークを形成しながら進めているほか、学内共同教育研究施設としてクリーンエネルギー研究センターと燃料電池ナノ材料研究センターを有し、我が国のグリーンエネルギー分野の研究・人材育成の中心拠点としての役割を担っております。

また、医学部附属病院の再開発では、設計から工事にわたり環境負荷軽減に配慮して進めており、平成27年度に第Ⅰ期病棟が竣工し、現在は、第Ⅱ期・中央診療棟整備を進めております。

山梨大学は、今後も引き続き国内外におけるエネルギー・環境問題の解決に貢献する人材の育成並びに先端的研究を推進し、地域社会及び国際社会の発展に貢献していく所存です。



国立大学法人山梨大学
学長 島田 眞路

大学概要

(平成30年5月1日現在)

名 称 国立大学法人山梨大学
 大学案内 <http://www.yamanashi.ac.jp/about>

【学 生 数】

区 分		男	女	合計
学 部	教育学部（教育人間科学部）	248	320	568
	医 学 部	632	392	1024
	工 学 部	1,452	197	1,649
	生命環境学部	318	293	611
	学 部 合 計	2,650	1,202	3,852
大学院	大学院教育学研究科（修士課程）	29	21	50
	大学院教育学研究科（教職大学院の課程）	18	7	25
	大学院医学工学総合教育部（修士課程）	5	10	15
	大学院医学工学総合教育部（4年博士課程）	60	12	72
	大学院医学工学総合教育部（3年博士課程）	25	26	51
	大学院医工農学総合教育部（修士課程）	375	93	468
	大学院医工農学総合教育部（4年博士課程）	60	18	78
	大学院医工農学総合教育部（3年博士課程）	68	35	103
	特別支援教育特別専攻科	8	8	16
大学院・専攻科合計	648	230	878	
その他（研究生、科目等履修生、特別聴講学生）		27	24	51
総 合 計		3,325	1,456	4,781

※平成28年4月の教育組織改編により、教育人間科学部は教育学部、大学院医学工学総合教育部は大学院医工農学総合教育部に名称変更

【教職員数】

学長・理事・監事	7
教 員	640 (203)
事務職員等	739 (404)
合 計	1,386 (607)

※常勤職員のみ

※（ ）は特任教職員等の数で外数

敷 地 面 積 569,551 m²
 建 物 延 面 積 253,618 m²

環境方針（山梨大学環境宣言）

（基本理念）

人類が21世紀をより良く生きるためには、人間の社会的行動によって起こる地球環境への負荷を軽減し、物質循環を基本とするゼロエミッションの社会を構築する必要があります。このような持続性のある循環型社会を構築し、維持していくことは私たちの責務であり、これらに向けた取り組みは必要不可欠であります。

本学では、よりよい環境を目指して、教育及び学術研究の面から地球環境の向上に貢献するための環境活動を実施するものであります。

（基本方針）

本学は、基本理念を実現するために、職員及び学生など、本学に関わる全ての人々の協力のもとに、それぞれの立場で「個人として」、「組織として」、自発的・積極的に環境活動に取り組みます。

- (1) 地球環境の保全・改善活動を推進するために、教育及び学術研究活動を通じて、循環型社会を担う21世紀に必要な人材を育成するとともに、教育啓発活動を積極的に展開します。
- (2) 環境目的及び目標を設定し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
- (3) 循環型社会の実現を目指し、廃棄物の減量化、再利用、リサイクルなどにより、省資源・省エネルギーに取り組み、環境維持・改善と汚染予防につとめます。
- (4) 適用される環境関連の法規、規制、協定、自主基準などを遵守します。
- (5) 山梨県における環境活動に積極的に参画し、地域環境の保全・改善活動を支援します。
- (6) この環境宣言は文書化し、大学ホームページなどを通じて、職員・学生など、本学に関わるすべての人々に周知するとともに、地域社会へも公開し、また、環境活動への取り組みを公表します。

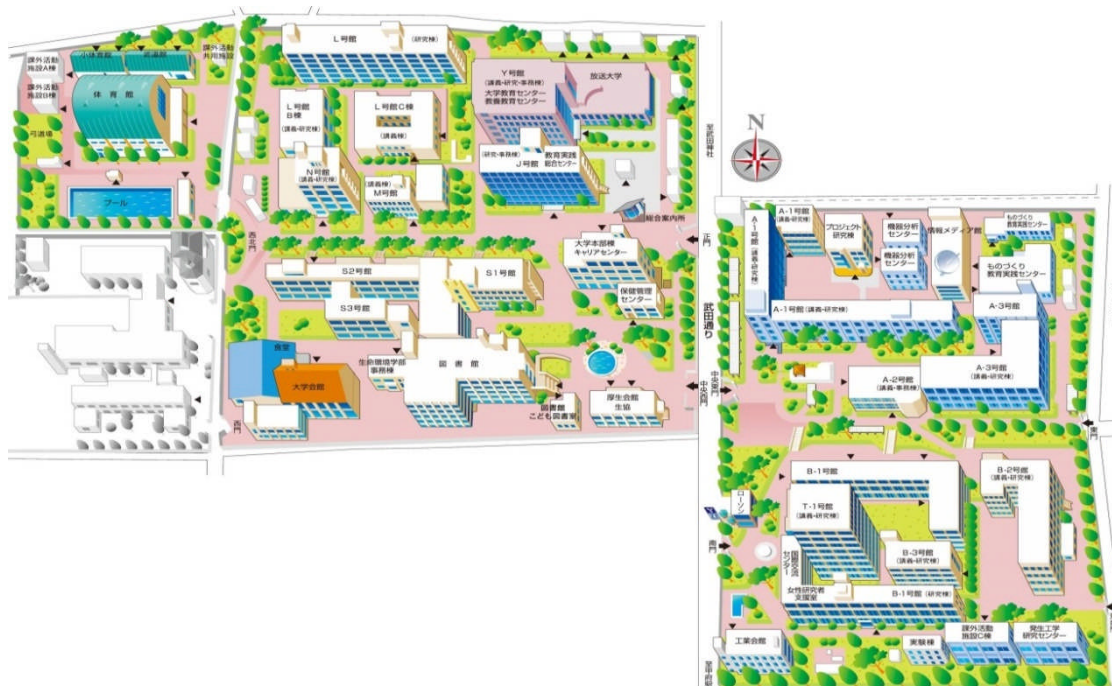
山梨大学長

主要な事業所

本学は、山梨県内の2ヶ所（甲府市・中央市）にキャンパスを所有し、4学部（教育学部・医学部・工学部・生命環境学部）を持つ総合大学です。

また、附属4学校園（幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校）、ワイン科学研究センター、クリスタル科学研究センター、燃料電池ナノ材料研究センター等の施設を甲府市内に持ち、活動を行っております。

甲府キャンパス 甲府市武田4-4-37

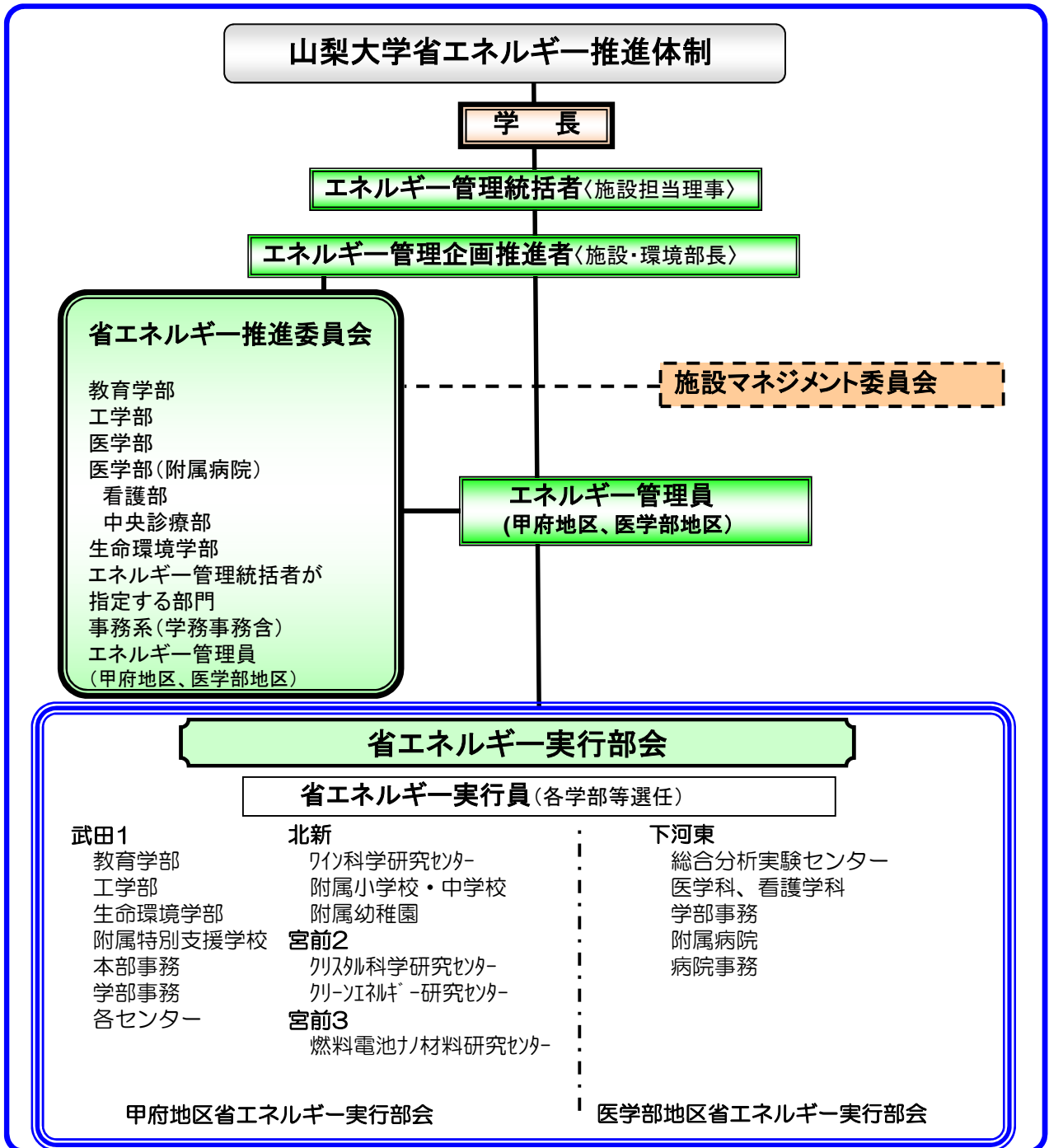


医学部キャンパス 中央市下河東1110



環境活動の体制

◆平成22年4月に「エネルギーの使用の合理化に関する法律」が改正され、省エネ体制においても、エネルギー統括管理者の選任(役員クラスの参画)及びエネルギー統括管理者を補佐するエネルギー企画推進者の選任(実務管理者)が義務づけられました。また、H24年4月生命環境学部創設、今後より一層省エネルギーを推進するため、H24年4月1日より、「国立大学法人山梨大学エネルギーの使用の合理化に関する規程」及び「国立大学法人山梨大学省エネルギー推進委員会要項」の改正を行い、省エネルギー推進委員会委員及び省エネルギー実行委員の選出を行いました。



環境配慮の目標

平成29年度は、下記の省エネルギー対策基本方針及び削減目標等を策定しました。

平成29年度山梨大学の省エネルギー対策基本方針・削減目標等

1. 基本方針

山梨大学の構成員は **自発的・積極的** に省エネルギー活動に取り組む。

省エネルギーの **目標を設定** する。

省エネルギーの活動状況を、大学ホームページなどを通じ **公表** する。

2. 削減目標

(1) 中期目標

3カ年計画の目標は、平成27年度を基準にエネルギー使用の原単位を毎年 **1%削減** する。(平成28年度～平成30年度)

<達成状況>

平成29年度のエネルギー使用量の原単位(原油換算)は41.4 (ℓ/千㎡)で、27年度46.8 (ℓ/千㎡)より、

11.6%の削減 となり、目標は達成された(平成28年1月から新病棟を運用しているが、年度途中での運用開始の為、削減率は大きくなっている)。

(2) 年度目標(平成29年度)

電力及びガスの使用量数値目標は、平成27年度エネルギー使用量より、甲府キャンパスにあつては **5.0%の削減**、医学部キャンパスにあつては **3.0%の削減** とする。

<達成状況>

・平成29年度電気の使用量は、甲府キャンパスで10,532 (千kwh)で、27年度10,363 (千kwh)より、**1.64%の増** となっているが、これは7月及び9月の平均気温が高かったためである。また、医学部キャンパスで21,263 (千kwh)で、27年度19,699 (千kwh)より、**7.94%の増** となっているが、これは平成27年度に運用を開始した新病棟に伴うものである。

・平成29年度ガスの使用量は、甲府キャンパスで173 (千㎡)で、27年度157 (千㎡)より、**9.65%の増** となっているが、これは夏季及び冬季の使用量が増えたためである。また、医学部キャンパスは2,126 (千㎡)で、27年度2,559 (千㎡)より、**16.91%の削減** となり、目標は達成された。

3. 省エネルギー運用基準

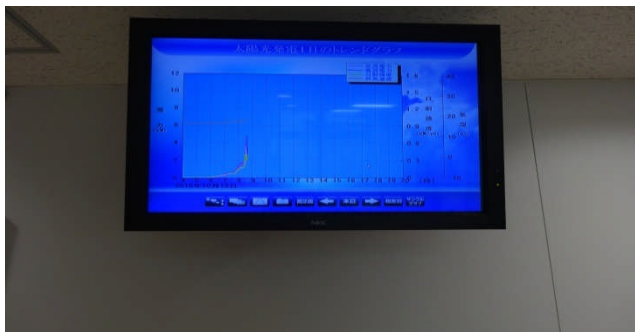
項 目	運 用 基 準
空調期間の標準設定	冷房：7月1日～9月15日
	暖房：11月20日～3月31日
一般室内空調基準温度	冷房：28℃
	暖房：19℃
不使用時の機器停止等	昼休み時間の照明一斉消灯
	使用していない部屋の空調停止・照明消灯
	業務時間外(昼休み・長時間の席空時)のパソコン電源OFF
機器の清掃	夜間、休日のコピー機、給湯ポット等の電源停止
	冷暖房シーズン前の空調機のフィルター清掃の実施
ブラインド等の有効利用	照明器具の清掃(蛍光灯の反射板清掃)1回/年
	窓ブラインド活用による空調負荷低減

省エネルギー推進委員会

環境配慮目標達成のための取組

環境配慮の目標達成のため、平成29年度は下記の取組を実施しました。

新エネルギーの導入による環境対策(太陽光発電設備)



屋内壁掛液晶モニター



太陽光パネル(新病棟屋上)

設備仕様	太陽光発電設備(10KW) 医学部キャンパス(新病棟)
	太陽電池モジュール:シリコン多結晶型
	同上パネル : 10KW
	同上架台 : 陸式架台
	パワーコンディショナ: 単相10KW
	表示装置 : 屋内壁掛液晶モニター
	データ計測 : NEDO計測指針に準拠
	系統連係 : みなし低圧系統連係
	平成27年6月より稼働。平成29年4月1日から平成30年3月31日までの発電量は15,026kwh。1日平均41.17kwhの発電量となった。

◆自然エネルギーの有効利用

平成29年度の太陽光発電による発電量は甲府キャンパスで65,685Kwh、医学部キャンパスで80,248Kwhであり、CO²排出量に換算すると甲府キャンパスで33.1tco²/年、医学部キャンパスで40.4tco²/年の削減となりました。

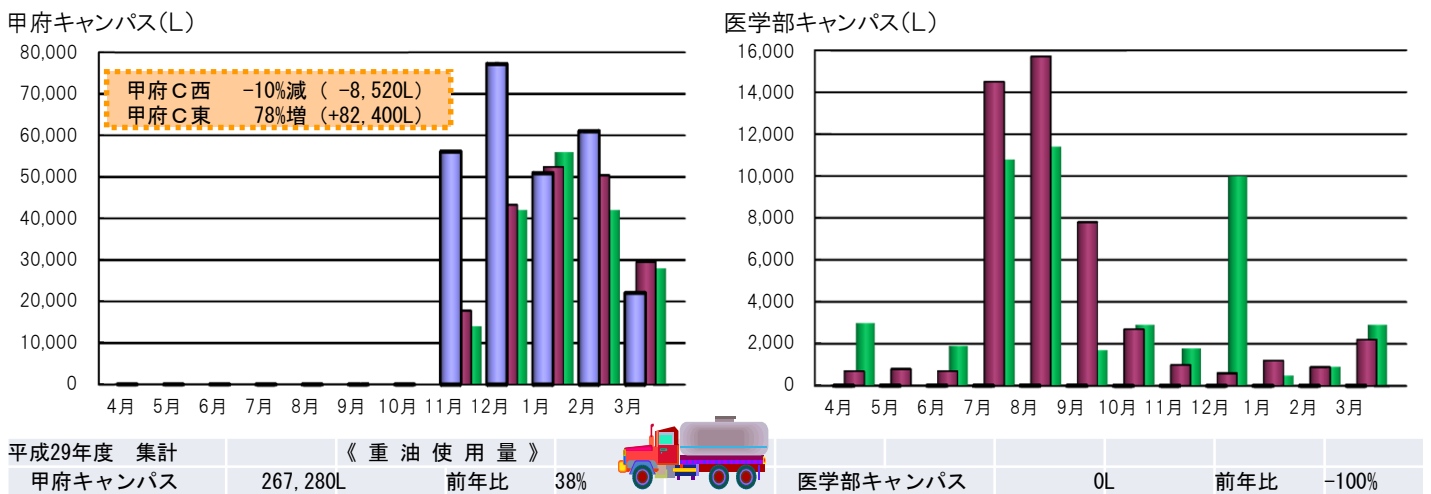
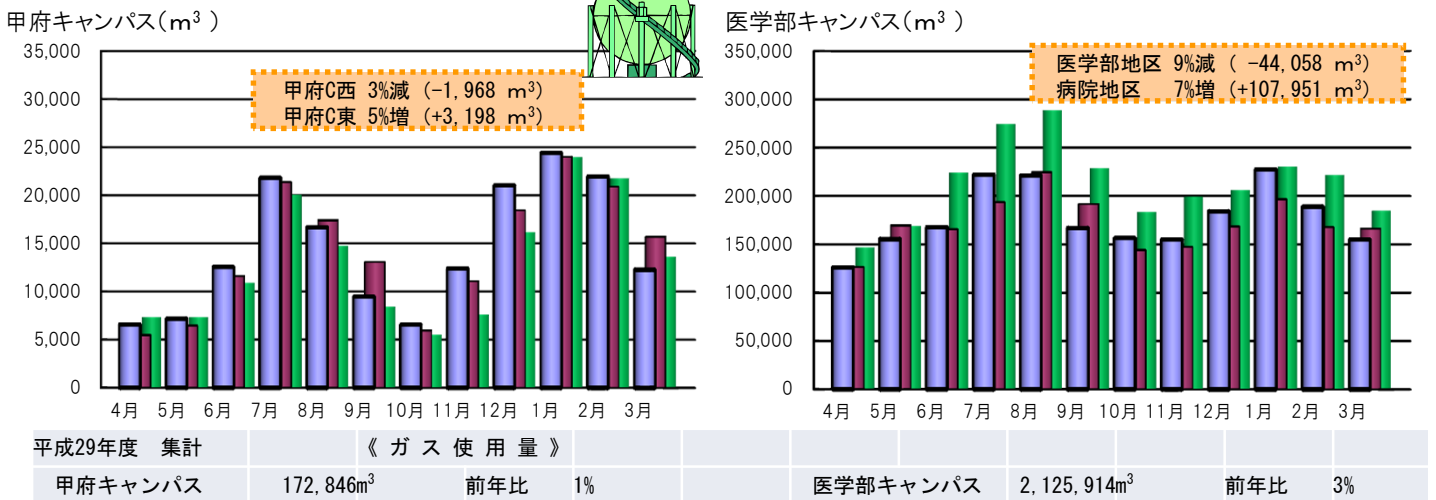
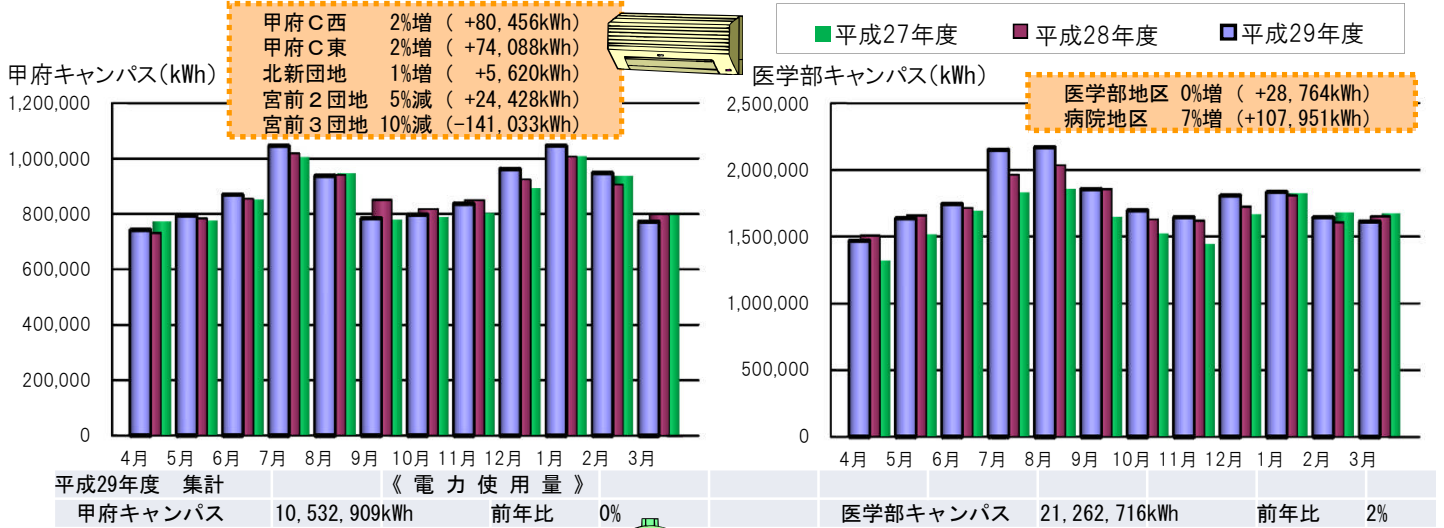
2. 省エネパトロールの実施

省エネルギー実行員が学内各施設の省エネルギー活動の状況を実際に施設を周ってチェックする省エネパトロール」を実施し、学内の省エネルギー強化を行いました。

項目	運用基準
空調期間(冷房)の設定	冷房:7月1日~9月15日 期間以外使用していない。
一般室内空調温度基準	冷房:28℃ の温度管理を行っている。
不使用時の機器停止等	不在時の空調停止・照明消灯を行っている。
	不在時、昼休みのPC電源OFFを行っている。
	電気ポット・コーヒーマーカーの保温禁止(湯沸かし時のみ電源ON)を行っている。
	冷水器を原則使用禁止している。
機器の清掃	窓側等の照明の消灯
機器の清掃	冷房シーズン前の空調機のフィルター清掃の実施
ブラインド等の有効利用	窓ブラインド活用による空調負荷低減を行っている。

事業活動に伴う環境への負荷（重油・ガス・電力使用量）

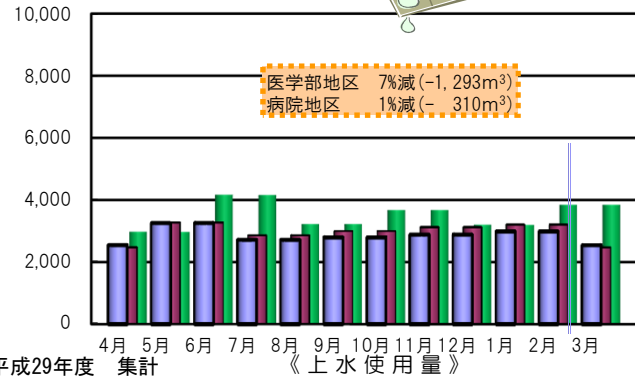
本学の平成29年度の事業活動に伴う環境への負荷は次のとおりです



事業活動に伴う環境への負荷（上水・井水・下水使用量）



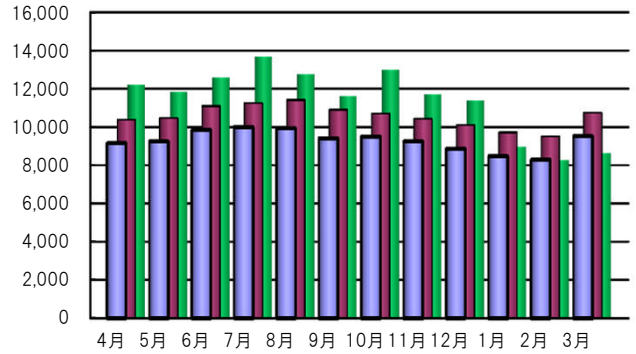
甲府キャンパス (m³)



甲府キャンパス	34,318m³	前年比	-4%
---------	----------	-----	-----

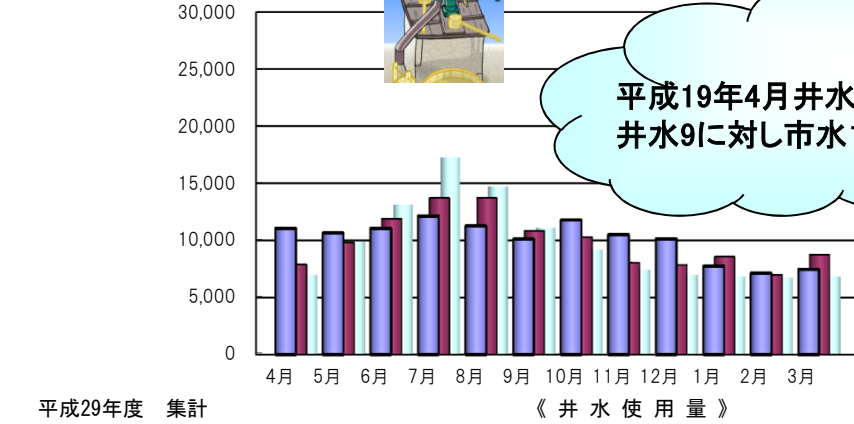
■平成27年度 ■平成28年度 ■平成29年度

医学部キャンパス (m³)



医学部キャンパス	111,438m³	前年比	-12%
----------	-----------	-----	------

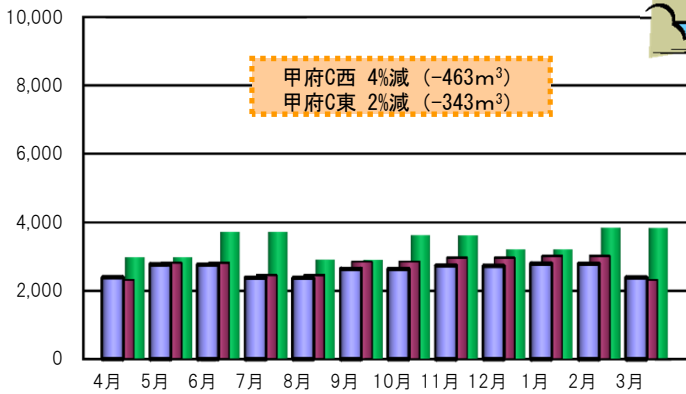
医学部キャンパス (m³)



医学部キャンパス	120,907m³	前年比	+2.2%
----------	-----------	-----	-------

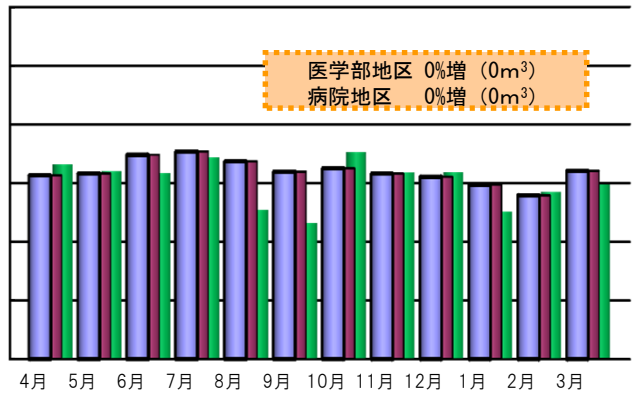
平成19年4月井水の飲用化開始
井水9に対し市水1の割合で供給

甲府キャンパス (m³)



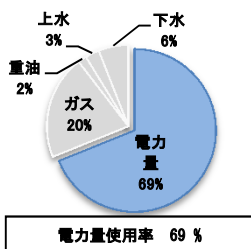
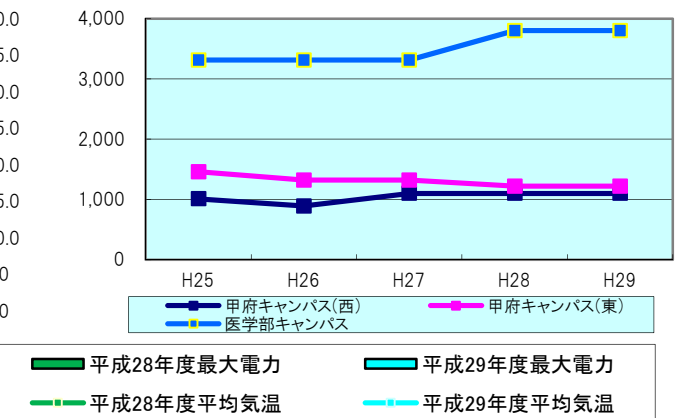
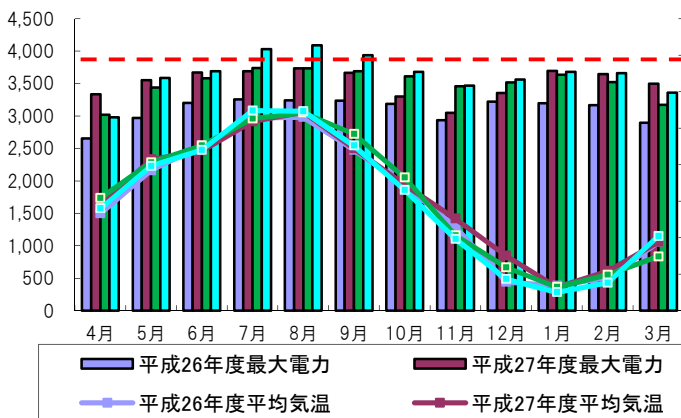
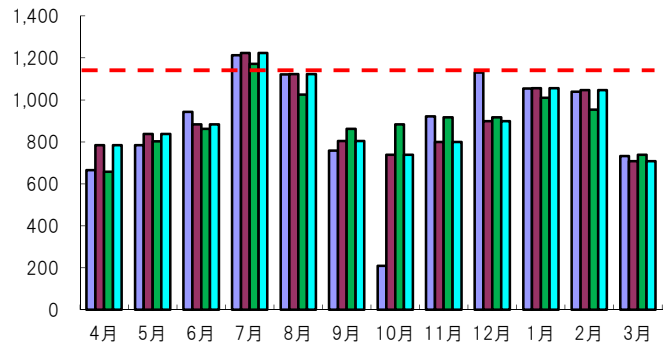
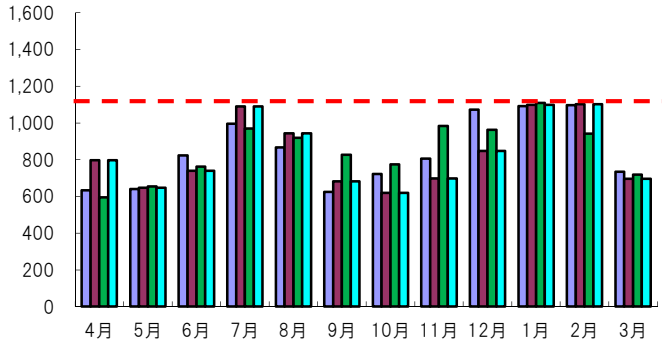
甲府キャンパス	31,412m³	前年比	-4%
---------	----------	-----	-----

医学部キャンパス (m³)



医学部キャンパス	191,819m³	前年比	0%
----------	-----------	-----	----

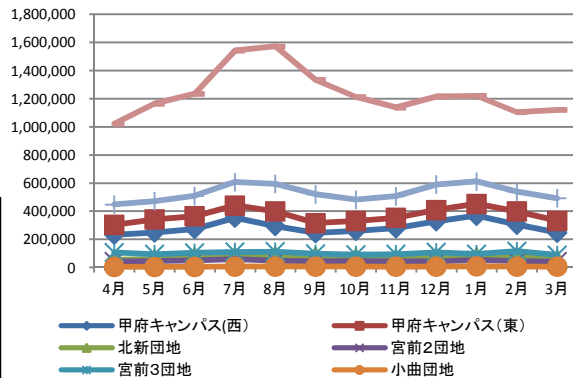
事業活動に伴う環境への負荷（電力使用量）



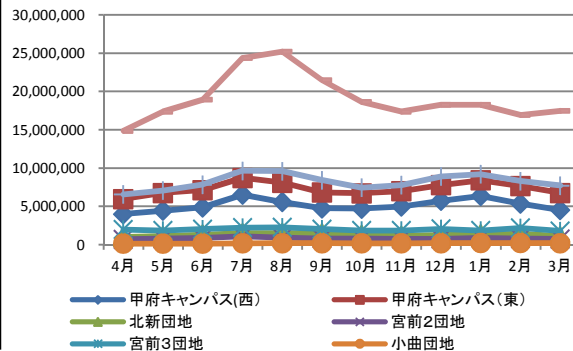
電力使用料金(平成29年度)

甲府キャンパス(西)	61,861千円
甲府キャンパス(東)	87,836千円
北新団地	15,509千円
宮前2団地	9,935千円
宮前3団地	23,959千円
小曲団地	2,211千円
医学部地区	98,528千円
附属病院地区	229,247千円
・甲府キャンパス	201,311千円
西キャンパス	約31%
東キャンパス	約44%
その他	約25%
・医学部キャンパス	327,775千円
医学部	約30%
附属病院	約70%
・甲府・医学部キャンパスとも夏と冬にピークがある	
・医学部キャンパス(医学部地区、附属病院地区)の約70%は附属病院で使用	

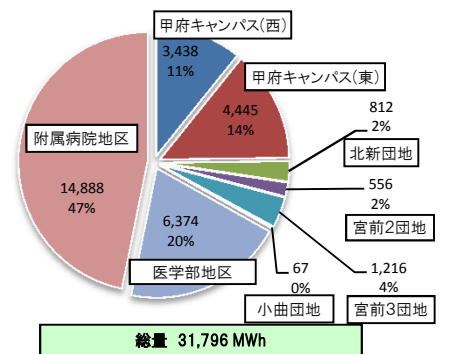
平成29年度電力使用量の月別推移 [kWh]



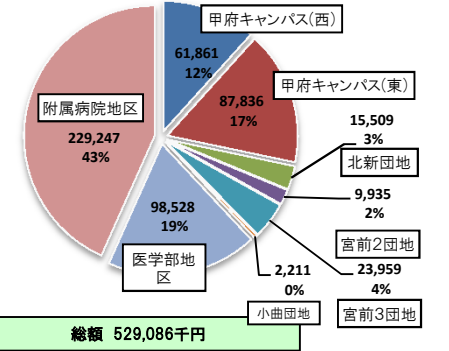
平成29年度電力使用料の月別推移 [円]



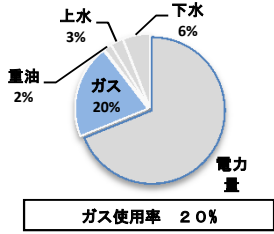
平成29年度電力使用量 [MWh]



平成29年度電力使用料 [千円]



事業活動に伴う環境への負荷（ガス、重油使用量）

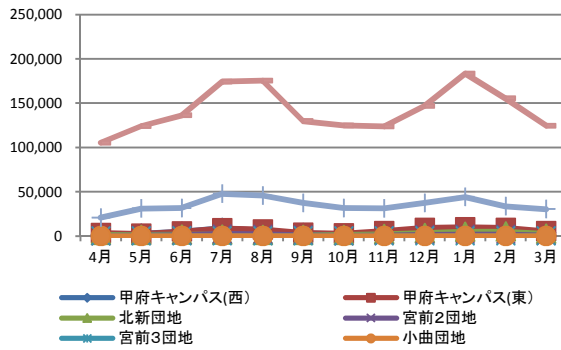


ガス使用料金(平成29年度)

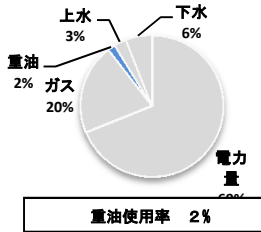
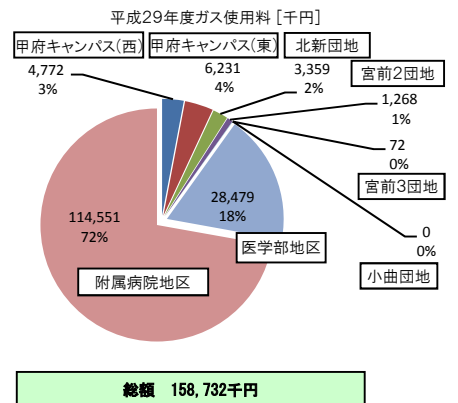
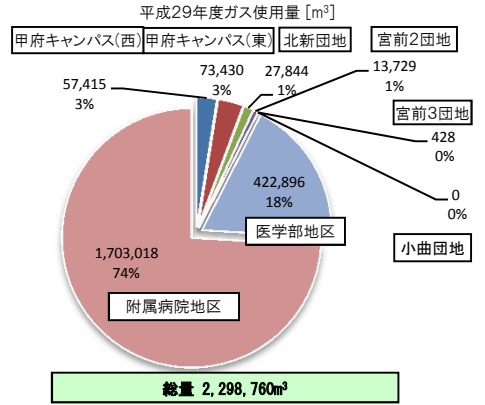
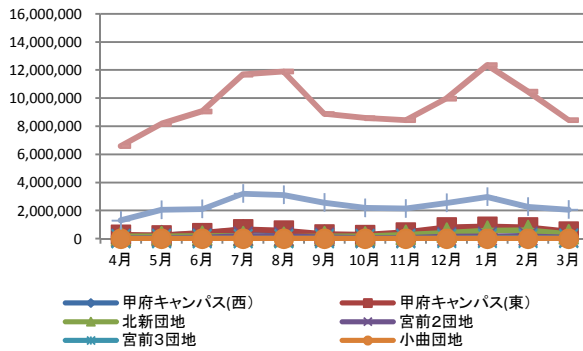
甲府キャンパス(西)	4,772千円
甲府キャンパス(東)	6,231千円
北新団地	3,359千円
宮前2団地	1,268千円
宮前3団地	72千円
医学部地区	28,479千円
附属病院地区	114,551千円
・甲府キャンパス	15,702千円
西キャンパス	約30%
東キャンパス	約40%
その他	約30%
・医学部キャンパス	143,030千円
医学部	約20%
附属病院	約80%

- 全体の90%が医学部キャンパス
- 甲府・医学部キャンパスとも夏と冬にピークがある
- 医学部キャンパスの、主熱源は中圧ガス
- 附属病院は、主に空調+給湯として使用
- 附属病院使用量の中に一部空調用として医学部(総合分析実験センター(動物実験施設)とR1実験棟)に供給している
- 附属病院は夏季に冷温水、冬季に蒸気の使用量が増加する

平成29年度ガス使用量の月別推移 [m³]



平成29年度ガス使用料の月別推移 [円]

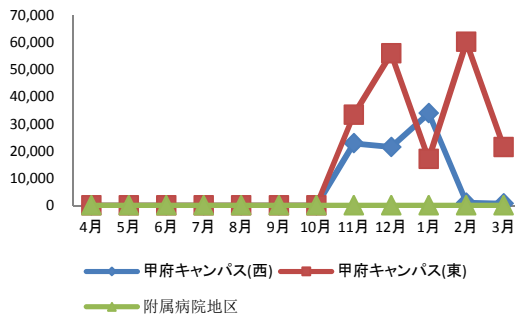


重油使用料金(平成29年度)

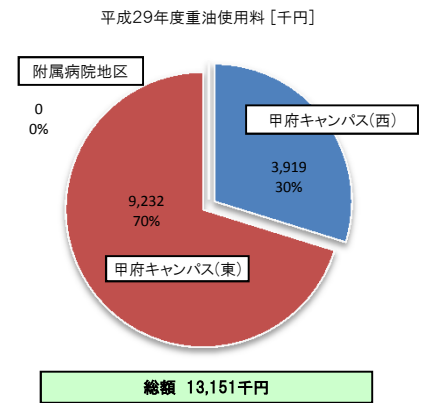
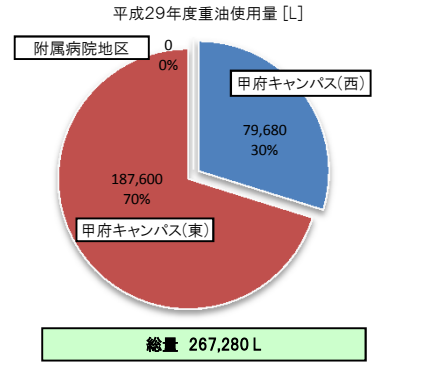
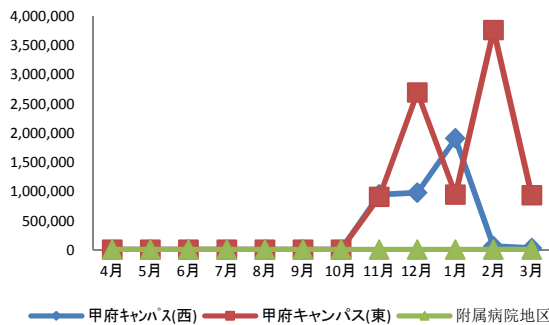
甲府キャンパス(西)	3,919千円
甲府キャンパス(東)	9,232千円

- 甲府キャンパスは冬季暖房のみ使用しているが、年次計画で個別空調(電気)を推進している
- 医学部キャンパスは附属病院の自家発電機に主に使用しているが、平成29年度の実績はなかった

平成29年度重油使用量の月別推移 [L]

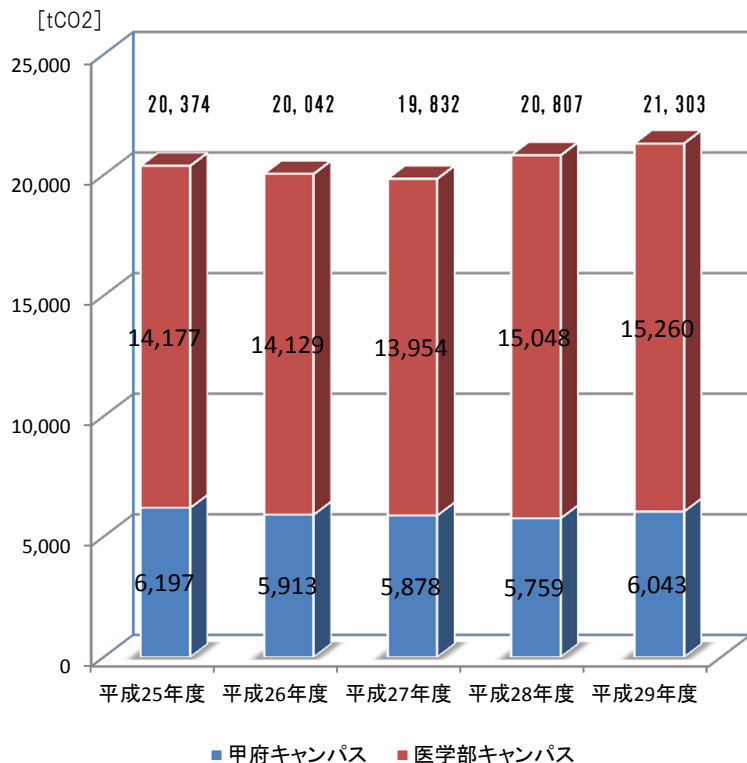


平成29年度重油使用料の月別推移 [円]



事業活動に伴う環境への負荷（二酸化炭素排出量）

（注）CO2削減量は東京電力の排出係数を使用



甲府キャンパス					
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
A重油	534	488	493	523	526
都市ガス	480	387	338	375	388
昼間買電	3,505	3,833	3,682	3,280	3,479
夜間買電	1,678	1,205	1,365	1,581	1,650
合計	6,197	5,913	5,878	5,759	6,043
削減率(前年度比)		-4.6%	-0.6%	-2.0%	4.9%
医学部キャンパス					
A重油	182	119	130	133	117
都市ガス	4,869	4,703	4,881	4,528	4,816
昼間買電	6,096	5,198	5,918	6,796	6,750
夜間買電	3,030	4,109	3,025	3,591	3,577
合計	14,177	14,129	13,954	15,048	15,260
削減率(前年度比)		-0.3%	-1.2%	7.8%	1.4%
両キャンパス 合計					
CO2排出量	20,374	20,042	19,832	20,807	21,303
削減率(前年度比)		-1.6%	-1.0%	4.9%	2.4%

環境関連法への対応状況

PCB(ポリ塩化ビフェニル)は、その特性(絶縁性・不燃性)により、トランスやコンデンサの絶縁油や潤滑油、インクなど様々な用途に利用されてきましたが、強い毒性や中毒症状等の健康障害や環境汚染の危険性が指摘され、現在は製造されていません。

しかし、それまでに広く普及していたため、政府はPCBの確実に適正な処理を進めるため、平成13年6月22日に「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」を公布し、同年7月15日より施行されています。

この法律では、事業者にはPCBの保管状況の届出や、平成35年3月までのPCBの処理が義務付けられています。

本学でもこの法律を順守し、保有しているPCB機器の洗い出し、保管とその届出を行い、処理施設(本学のある山梨県では北海道室蘭市の施設)での処理を、平成26年度は高濃度PCB機器(コンデンサ)、平成27年度は蛍光灯安定器・高濃度低圧コンデンサについて実施・完了しており、全ての高濃度PCB油等の高濃度PCBに関して平成29年度に処理を終了した。



環境配慮に係る教育

環境教育の推進

山梨大学では、「全学共通教育科目」及び「専門科目」において、環境に関する教育を幅広く実施しています。また、読売新聞甲府支局と共催し開催している「連続市民講座」において環境に関する科目を開設し、広く市民に向けて環境に関する講座を実施しています。平成29年度は、以下の環境関連科目・市民講座が開講されました。

全学共通教育科目
家庭の中のエレクトロニクス, 生命科学と社会, ガイア仮説と地球システム科学, 自然災害と都市防災, 環境問題という問題, 自然科学と環境, 地球環境化学とエネルギー, プラスチックの科学, 都市計画, 環境生態学, 安全環境化学, 都市と交通の計画・管理の最前線
教育学部
地球環境史
教育学研究科
生物学特論 I
医学部
地域看護学実習2(環境保健・産業看護実習), 環境遺伝医学, 社会医学, 環境保健
工学部
都市計画, 防災工学, 衛生工学及び演習, 環境生態学, 環境工学概論, 交通計画, 環境生物工学, 水文学, 水処理工学, 廃棄物管理工学, 総合河川学, 水質学, 景観工学, 安全環境化学, 環境浄化技術特論, 環境保全工学, 国際環境技術 I, 水文水資源学特論, 陸水水質評価特論, 流域医工学特論, 流域管理特, 電池工学
大学院(工学領域)
燃料電池システム工学応用特論, 触媒材料科学特論, 表面科学特論, 燃料電池ナノ材料応用特論, 燃料電池反応解析応用特論, 触媒科学特論, 電極触媒設計特論第一・第二, 表面・界面科学特論第一・第二, 電極触媒設計特論, 表面・界面科学特論, 燃料電池設計科学特論, 燃料電池設計科学特論第一・第二, 燃料電池設計特論, 燃料電池設計特論第一・第二, 電気化学材料特論, 電極触媒設計特論 I・II, 燃料電池設計化学特論, 太陽エネルギー変換工学特論第一, 太陽エネルギー変換工学特論, エネルギー量子化学特論, 環境科学特論, グリーンエネルギー科学・技術英語特論初級, グリーンエネルギー科学・技術英語特論上級, 燃料電池科学技術英語特論上級レベル,
生命環境学部
共生科学入門, 生命環境基礎ゼミ, リスクマネジメント概論, 農作物生産学, 気象学, 微生物生態学, 環境情報学及び実習, 環境科学基礎実験 I・II, 水圏科学, 土壌科学, システムダイナミクス及び実習, 生態学, 環境科学入門, 地球科学, 大気環境科学, 経済学概論, 地方財政学, エネルギーマネジメント, 環境経済政策論, 環境政治論, 地域計画学, 科学技術政策論, 政治学原論, 行政法 II, 社会科学入門
大学院(生命環境学領域)
科学者倫理, 生命環境学特論, 応用生命環境学特論, 生命環境学演習A・B, 生命環境学研究A・B, 応用微生物学特論, 生物有機化学特論, 環境微生物資源学特論, 農作物栽培生理学特論, 気水圏環境動態解析特論, 生物圏環境動態解析特論, 環境計測評価特論, 生物生産環境特論, 資源循環型食料生産特論, 生物環境適応学特論, 環境物理学特論, 環境数理システム特論, 環境共生圏科学実習, 環境資源経済学特論, 農業経済学特論, 経営学演習, 技術開発史特論, 地域計画学特論, エネルギーマネジメント特論, 環境政治学特論, 環境法演習, 地域環境マネジメント演習A・B, 地域環境マネジメント研究A・B

環境配慮に係る研究

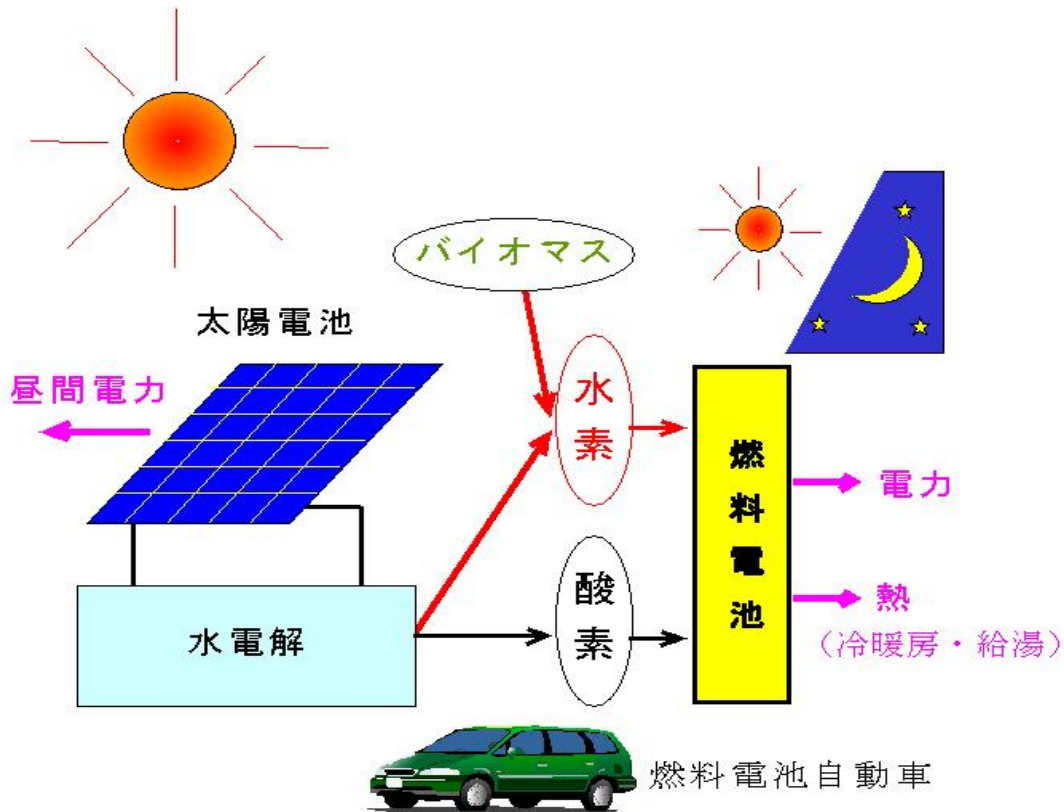
環境研究の推進

山梨大学では、環境に関連する研究を行っています。そのうち、先進的な研究例についてご紹介します。

●クリーンエネルギー研究センター

①燃料電池部門

燃料電池自動車、家庭用の固体高分子形燃料電池及びシステムの研究、及び次世代の火力代替発電用の固体酸化物形燃料電池に関する研究を行っています。上記の燃料電池を逆作動させた水電解による高効率水素製造の研究も進めています。現在、この分野の代表的研究拠点として、科学技術振興機構（JST）やNEDOをはじめ幾つかの大型受託研究、あるいは大手企業との共同研究を実施しています。



②太陽電池・環境科学部門

再生可能エネルギーである太陽光やバイオマスおよび地熱から水素製造、発電する研究を行っています。最近においては、優れた研究を対象としたJST「太陽光を利用した独自のクリーンエネルギー生成技術の創出」、同「触媒法によるアルコール蒸留廃液ガス化処理プロセスの開発」、文部科学省「やまなし次世代環境・健康産業創出エリア：高効率熱電変換材料の開発」、その他に財団や企業の研究費を獲得し、研究を推進しています。

環境配慮に係る研究

環境研究の推進

●燃料電池ナノ材料研究センター

■研究テーマ：

固体高分子形燃料電池利用高度化技術開発事業／普及拡大化基盤技術開発／セルスタックに関わる材料コンセプト創出（高出力・高耐久・高効率燃料電池材料のコンセプト創出）

■プロジェクト代表者：飯山明裕（燃料電池ナノ材料研究センター）

■研究概要：

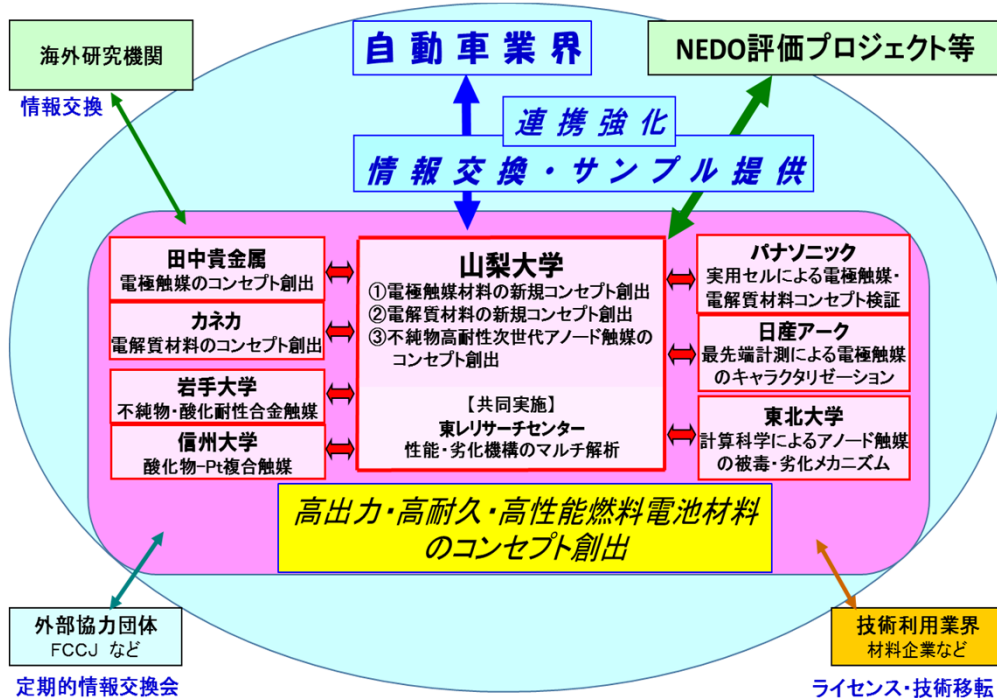
わが国におけるエネルギー供給の安定化・効率化、地球温暖化問題の解決等の観点から、燃料電池の実用化が期待を集めています。しかし、燃料電池の本格的普及には、

コストの低減ならびに耐久性及び信頼性の向上という多様な要素を満たす革新的なブレークスルーが待望されており、そのためには、サイエンスに立ち戻った研究開発を行うことが必要です。

本センターは反応、劣化メカニズムに係わる知見ならびにナノテクノロジー等の先端技術の融合により、触媒・電解質膜・MEA等の燃料電池の材料研究等を実施し、高性能・高信頼性・低コストを同時に実現可能な基礎技術を確立することで、燃料電池の本格普及に資することを目的として、NEDOの燃料電池プロジェクト（HiPer-FC）の拠点として、2008年4月に設立されました。現在は、2015年5月からの後継プロジェクト（“S”Per-FC）として、燃料電池の本格・大規模普及を可能にする高耐久・高性能・低

コストの電極触媒、電解質材料（膜／バインダー）について、それらの機能を極限まで発揮させる触媒層の評価・解析を通してその有用性を検証し、新規コンセプトの創出を目指し、クリーンエネルギー分野の研究開発を進めております。

山梨大学の燃料電池NEDOプロジェクト体制



国立大学法人山梨大学環境報告書

- 対象団地・所在地 : 甲府キャンパス
山梨県甲府市武田4丁目4番37号
医学部キャンパス
山梨県中央市下河東1110番地
- 対象期間 : 2017年度（平成29年度）
平成29年4月1日～平成30年3月31日
- 作成部署 : 国立大学法人山梨大学
施設・環境部
- 問い合わせ先 : 国立大学法人山梨大学
施設・環境部施設企画課
住 所 山梨県中央市下河東1110番
T E L 055-273-6720（直通）
F A X 055-273-6799
e-mail skikaku@yamanashi.ac.jp

